

9. 令和2年度 千葉県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告

千葉県循環器病センター 脳神経外科 青柳 京子

まとめ

令和2年4月1日千葉県は千葉県循環器病センターを千葉県てんかん診療拠点機関に指定した。新型コロナウイルス感染拡大に伴い令和2年度前半は、通常診療をはじめ、集会での研修会・公開講座の開催や施設訪問にも制限が加わり、当初の目標を果たせなかった面があった一方で、インターネットを通じた交流が活発になったことから、ホームページやWEB研修会を通しての医療機関・福祉施設・教育機関・患者家族との連携の強化、症例検討会への多施設からの参加数の増加、オンライン診療の整備等、今後の活動の新しい方向性に目を向けることのできる1年となった。

1. 概要

千葉県循環器病センターにおいては平成30年度よりてんかんセンターが設置され、多職種による運営委員会、てんかん症例検討会などを開催してきた。令和2年4月1日千葉県は千葉県てんかん地域連携体制整備事業に基づき千葉県循環器病センターを千葉県てんかん診療拠点機関に指定した。県内でのてんかん外科治療を中心的に担うとともに、行政との強い結びつきをもつ県立病院という特性を生かし千葉県内でのてんかん診療ネットワーク構築を目指している。

2. 千葉県てんかん地域診療連携体制整備事業

1) てんかん治療医療連携協議会

令和2年7月に第1回千葉県てんかん治療医療連携協議会、令和3年1月に第2回千葉県てんかん治療医療連携協議会（書面開催）を開催した。協議会はてんかん治療を専門に行っている医療機関の医師（行徳総合病院脳神経外科、千葉大学医学部附属病院脳神経外科、国際医療福祉大学成田病院脳神経内科、木更津病院精神科、東邦大学医療センター佐倉病院小児科、浅井病院精神科、千葉県循環器病センター脳神経外科）、患者家族会代表者（日本てんかん協会千葉県支部）、福祉機関代表者（精神保健福祉センター、市原健康福祉センター）、行政機関代表者（千葉県健康福祉部障害者福祉推進課、病院局経理管理課）から成る。第1回協議会では事業計画と予算構成について、第2回協議会では事業報告と収支報告見込みについて、議論が行われ、提案事項、報告事項につきそれぞれ承認された。

2) 診療に関する事業

①実績（別紙「令和2年度てんかん診療拠点機関の指標について」参照）

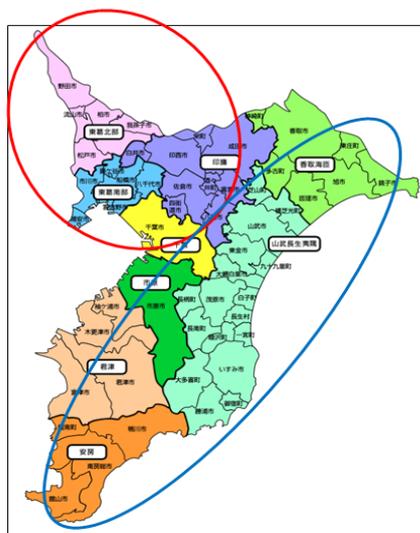
令和2年度前半はCOVID-19感染拡大を受け、不要不急の診療の延期、患者家族の付き添いの禁止が求められたため、付き添いの必要な長時間脳波ビデオ同時記録検査をはじめとする検査目的の入院に大幅な制限が生じ、のべ入院患者数、新規入院患者数、てんかん手術件数、長期脳波ビデオ同時記録件数ともに目標値を下回る値となる見込みである。一方で、後述する拠点機関としての働きかけの結果、新規外来患者数は4月から5月にかけての外来患者数減少にも関わらず、12月までの9か月間で108名となっ

ており、年間目標値 140 名に近い値となる見込みである。また、電話相談、外来での看護介入、専門診療問い合わせ（8月より開始）は12月までにそれぞれ164件、484件、31件となっている。

②診療連携に向けての取り組み

千葉県は9つの二次保健医療圏からなっており、人口が集中し大病院が多数存在する北西部と人口密度が低く医療資源へのアクセスが困難な東部南部では異なる診療体制の整備が望まれる。二次医療圏の中核病院への訪問・電話連絡・研究会開催などにより、千葉県のでんかん診療連携の構想について情報を提供した。医療機関向けの診療実態調査を予定しており、調査結果をホームページ等に掲載することで医療機関間での連携体制の強化を図っていく。また、コーディネーターが中核地域生活支援センター連絡協議会、千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会、精神保健指定医会議、養護教諭会への参加や施設訪問（障害者支援施設11施設、中核支援センター3か所、行政機関3か所）を通して、顔の見える関係を構築し、各施設の実態や拠点機関に求められている役割についての情報収集を行った。

千葉県の二次保健医療圏



保健医療圏	人口（人）	構成市町村
千葉	966,154	千葉市
東葛南部	1,760,137	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、鎌ケ谷市、浦安市
東葛北部	1,375,743	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市
印旛	726,140	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡酒々井町、栄町
香取海浜	282,442	銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、香取郡神崎町、多古町、東庄町
山武長生夷隅	437,962	茂原市、東金市、勝浦市、山武市、いすみ市、大網白里市、山武郡九十九里町、芝山町、横芝光町、長生郡一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、夷隅郡大多喜町、御宿町
安房	129,159	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡鋸南町
君津	328,836	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市
市原	278,587	市原市
県計	6,285,160	37市16町1村

平成30～35年度千葉県保健医療計画より

③多職種・多施設によるてんかん症例検討会開催

てんかんセンター設置以来、院内の多職種（脳神経外科医・精神科医・看護師（看護局・病棟・外来・手術室）・薬剤師・栄養士・社会福祉士・言語聴覚士・理学療法士・放射線技師・臨床検査技師・事務局）による症例検討会を開催し、診断・治療のみならず、家族背景への配慮や社会福祉資源の活用も含めた検討を重ねてきた。令和2年度は、新たにZoomを用いたオンラインカンファレンスを導入し、千葉大学脳神経外科・小児科、浅井病院精神科、木更津病院精神科、東邦大学医療センター佐倉病院小児科、国際医療福祉大学成田病院脳神経内科から参加登録をいただき、各症例につきより活発な議論がなされた。

④外来医師派遣・オンライン診療導入に向けての準備作業

てんかんは有病率の高い疾患であるにもかかわらず専門医療へのアクセスが困難であることが課題となっている。一般の脳外科医・神経内科医・精神科医で診断・治療に難渋する症例は当院への紹介を勧めているが、当院の交通アクセスの悪さから患者が受診を希望しないという現状もある。このため、他院へ

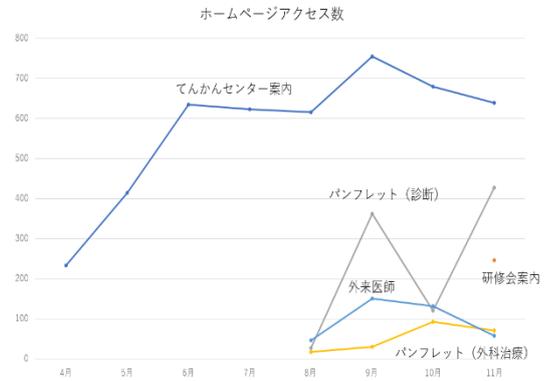
医師を派遣してんかん専門外来を開設する試みを令和3年1月より開始した。

同様に遠方からの通院患者に対しオンライン診療を用いて頻繁に外来受診を行うことで、服薬コンプライアンスの向上と適切な薬剤コントロールを図るべく、システムの導入準備中である。システムが順調に稼働することが確認された後、遠隔連携診療料の対象となる医療機関同士の連携体制の構築も計画している。

3) 教育・啓発活動・研究に関する事業

①ホームページ開設

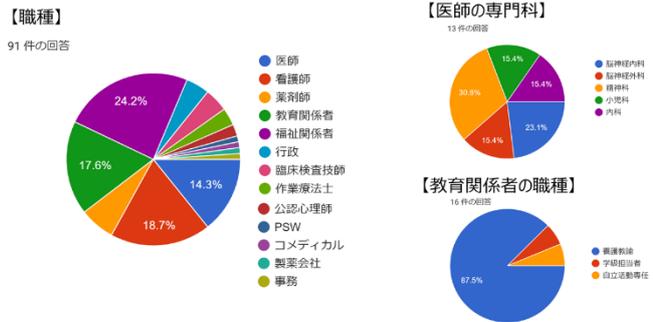
令和2年4月に病院ホームページ内に脳神経外科から独立してんかんセンターのホームページを開設し、てんかんセンター、てんかんの診断や治療についての情報を掲載した。下記3)のパンフレットのPDF掲載や研修会案内を適宜アップロードしたところ、アクセス数が増加した(右図参照)。また、患者・患者家族が自身でホームページの情報を検索し、専門診療問い合わせや新規外来紹介受診につながる例も多数みられ、外来患者数の増加に寄与した。



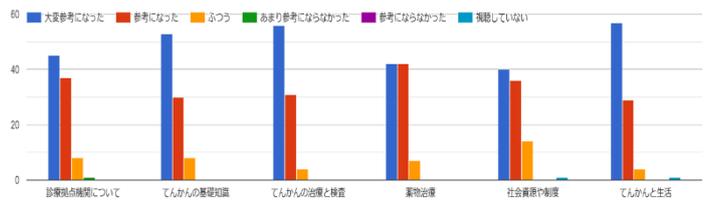
②研修会・公開講座開催

当初は医療機関向け研修会1回、教育・福祉機関向け研修会1回、市民向け公開講座2回の開催を計画していたが、COVID-19の感染収束の目途が立たない中、集会での研修会開催が実現できない状況が続いた。令和2年12月12日Zoomのウェビナー機能を用いたWEB研修という形で医療機関・教育・福祉施設向けの研修会を開催した。院内の医師・薬剤師・社会福祉士・看護師を講師とし、診療拠点機関の役割・てんかんの基礎知識・治療と検査・薬物療法・社会資源と支援制度・生活上の留意点についての講演を行った。199アカウントからの事前登録(重複者を含む)のうち、当日133アカウントからの参加があり、各施設内での複数名での視聴や院内向け会場視聴を含め161名の参加があり、このうち91名から研修後アンケートの回収が得られた。特に教育・福祉関係者の関心が高く、今後の研修会への要望や診療拠点機関に期待する点など多くの意見が寄せられた。このような意見を踏まえ、令和2年度内に、教育機関・福祉施設向けに幅広くアンケート調査を実施し今後の啓発活動の改善に繋げていく予定である。

令和2年度千葉県てんかん診療拠点機関Web研修会 アンケート結果



各講演の感想をお聞かせください。総合的に判断してご回答ください。



また、研修会案内をホームページに掲載したところ、患者・患者家族から市民対象の公開講座の開催への強い希望が多数寄せられたため、令和3年3月6日にオンラインによる市民公開講座を予定している。

③パンフレットの作成・配布

外来患者向けパンフレット「てんかんと診断された方へ」「てんかんの外科治療について」「災害への備え」を作成し、外来に設置するほか、ホームページからPDFとしてダウンロードできる形で公開した。県民対象に「てんかん専門相談・専門診療のご案内」を作成し、県内医療機関（精神科・脳外科・脳神経内科・小児科標榜施設）・障害者支援施設・高等学校・特別支援学校・行政機関（精神保健センター等）等、約2000施設に発送した。

④広報誌への情報提供

千葉県医師会発行の県民向け広報誌「ミレニアム」や千葉県医師会雑誌「CMAM」への記事投稿、日本てんかん協会千葉県支部月刊誌「わかしお」への事業内容や活動現況報告の寄稿、千葉県医師会ホームページ医療トピックスてんかん紹介ページの監修などを行った。

⑤教育・研究に関する事業

千葉大学医学部附属病院とは脳神経外科研修医向けレクチャーや脳神経外科・小児科との合同症例検討会を行っている。また、京都大学脳神経内科学教室、千葉県がんセンター脳神経外科とともに共同研究を進めている。

3. 今後への課題

千葉県においては人口が集中し大病院が多数存在する北西部と人口密度が低く医療資源へのアクセスが困難な東部南部では異なる診療体制の整備が望まれるが、いずれもてんかん診療に関わる医療資源の所在や診療科間、医療機関間での情報共有や連携は不十分である。診療実態調査を通してそれぞれの地域に適した連携体制の構築が必要である。研修会・公開講座や教育機関・福祉施設アンケートを通して、てんかんに対する関心が高いことが明らかとなったが、一方で知識を得られる機会が少なく、教育・福祉現場で直面する課題について相談できる窓口が不明であるとの意見が多数寄せられた。令和3年度以降は研修会や公開講座やてんかん診療支援コーディネーターによる相談業務などを通して啓発活動により一層努める予定である。